

会員の皆さん

分娩取扱医療機関向けの HTLV-1 母子感染についてのアンケート調査結果について

平素は日本産婦人科医会母子保健部の活動にご協力いただきありがとうございます。さて、令和7年1月から2月に全国の分娩取扱施設を対象に HTLV-1 母子感染についてのアンケート調査を行いました。会員の皆様のご協力により、1,297 施設（回答率 67.0%）から回答をいただきました。

HTLV-1 キャリア妊婦については、近年の当会の調査により、水平感染と考えられる妊婦が 10%前後いることが明らかになってきており、HTLV-1 の感染経路として経母乳感染とともに水平感染が注目されるようになりました。そのことを踏まえて、今回の調査では、水平感染の実態について焦点を絞って調査を行いました。調査結果を解析した結果の要点を以下に示します。今回の調査結果は非常に意義深いものであったことから、論文化して報告しています (Ogoyama M. et al. Decline in Human T-Cell Leukemia Virus Type 1 Pregnant Carriers and Emerging Concerns About Horizontal Transmission: A Nationwide Survey in Japan. J Obstet Gynaecol Res. 2025 Nov;51(11):e70145.)。改めて今回の調査にご協力いただいた会員の先生方に深くお礼申し上げます。

2025年12月

日本産婦人科医会母子保健部

常務理事 相良洋子

常務理事 関沢明彦

常務理事 鈴木俊治

記

- HTLV-1 のスクリーニングは広く行われており、全体の陽性率は、0.072%であった。陽性率は九州で 0.249%と高いものの低下傾向にある。
- HTLV-1 キャリアのうち、水平感染の可能性のあるものが 16.3%いたことが確認された。
- 母親の出生年別（年齢別）のキャリア率であるが、10歳代は 0%であり、20代から30代前半は 0.03-0.04%、30代後半は 0.08%、40代前半は 0.13%、40代後半は 0.26%と高年齢の妊婦でキャリア率が高年齢ほど上昇した。

以上